

名はそのまま杉本 (1961) にもひきつがれ、しかも学名は *Cyclobalanopsis × idzuensis* Okuyama になっている。しかし、奥山はこの組合わせをおこなっていないばかりか、すでに牧野が記載したときに *Quercus idzuensis* Makino, nov. sp. (= *Cyclobalanopsis idzuensis* Makino) とされているので、どちらの属名をとるにせよ、こうした事情をこの際はっきりさせておく必要があり、和名にもヒメアカガシを使ってよいと思う。牧野 (1929) にすでに *Q. takaoyamensis* Makino var. *yokohamensis* Makino にこの名をつけているが、この名はその後とりあげられていないので、*Q. × idzuensis* にこの名を残してよいと思う。

この間の問題については、静岡市の大村敏朗氏を通じて奥山春季氏のご教示をいただき、初めて明らかにすることができたことが多い。ここに両氏にあつくお礼を申しあげらるしだいである。

引用文献

- 牧野富太郎 1941. 姫赤ガシ. 実際園芸. 27: 1098-1099. 三好教夫 1982. 走査電子顕微鏡による花粉の形態. 4. ブナ科 (被子植物) について. 岡山理科大学森山研究所報告 第7号, 55-60. Nakamura, J. 1956. The size-frequency of *Quercus* pollen. Res. Rep. Kochi Univ. 5(21): 1-5. 奥山春季 1953. 植物採集ハンドブック 230. 杉本順一 1961. 日本樹木総検索誌 122.

Summary

An evergreen oak having morphological characters intermediate between *Quercus acuta* and *Q. glauca* is found at Niida in Kōchi City, Shikoku. This oak is regarded as a natural hybrid between them and may be identical with *Quercus idzuensis* Makino in Zissai-Engei 27: 1099 (1941) described from Prov. Idzu (Shizuoka Pref.), middle Honshu.

□月刊さつき研究社 (編): 野生ラン事典 300 pp. (内 288 pls.) 1982. 同社, 鹿沼. ¥1,800. 近頃は中々美しい写真が印刷されるようになり、ランの写真も見違えるようになった。本著もその一つである。小笠原や琉球にも手を伸ばし、でて来た71属をほとんど網羅して載せた図版は中々楽しい。各頁に1種ずつを原則とし、イヨトシボやムヨウランなどには図版を二つにしてあるのも役立つ。ざっとした記載も割によい。産地が県単位にしてあるのは止むをえないだろう。学名は付記してないが、それなりに役立つものと考え、一般におすすめしたい。

(前川文夫)